

沖縄戦

サンマテウス 松本 正雄

日本文化6巻「戦争と移民」沖縄ディアスポラ... 沖縄戦の死闘を...

太平洋戦争を通じて、日本には2名の名将が... 陸軍の牛島満司令官の...

グローボ放送局の驕り

パラナグア 増田 二郎

渡伯60年、半スポンを穿いていた少年も、70代後半に差し掛かり、やれ映画だ、やれ焼肉会...



この戦、県民誰一人として望んではいなかった... 責任であり、死して(6月23日自決)責任逃れは良くありません...



サンパウロ青年図書館とニッケイ新聞刊行の日本文化6巻

が持つてなせ悪いかと(ごもつとも) 日本国民の皆さん、心配する事なれば、日本には平和憲法9条がありま...

皇室のご来伯大歓迎

私が以前にぶらつき欄に投稿した「日本移民100周年祭典」というタイトルで、皇室のご来伯を要望した記事が掲載されました...

皆さんも一緒に考えてみましょう。第2章では「国民20万人を救った2人の島守」...

「おねがいに」 Eメールでの投稿を歓迎します。1千字以内にとめてください...

た西郷の背中を追うように、音彬の弟久光(青木崇高)に近づき、頭角を現している...

少年移民出航の思い出

サンパウロ 三宅 信夫

1930(昭和5)年5月、父・母・兄・姉・私の家族5人は、神戸を発ち、ブラジルに移住して来ました...

丸は、日本国を離れた見送りの方から大声で「オーいあにきー聞えりけ。おらあもあとかからブラジルに行くけん...

「共同」絶対にミスしたくないという気持ちで挑んでいる。静かな語り口の中に強い意志がのぞく...

「おねがいに」 Eメールでの投稿を歓迎します。1千字以内にとめてください...

「共同」絶対にミスしたくないという気持ちで挑んでいる。静かな語り口の中に強い意志がのぞく...

入って見ていた青春期がありました。今思い出しても本心に楽しい時代だったな、と昔を懐かしむ今日この頃です...

のあな、と思うと情けなくなり。40年来、妻に付き合ってきた私です...

このように、グローボ社の作品は好評で、世界中に輸出でき、外貨獲得にも一役買った。外貨獲得に、「汝、お前もか！」と残念に思っているところ...

この点、日本は汚職してピンハネが少ない、と思つていた戦後呼び寄せ移民の一人として、ブラジル人相手に優越感を持っていたのですが、先日のNHKで、世界一を競う日本のスーパーコン...

「おねがいに」 Eメールでの投稿を歓迎します。1千字以内にとめてください...

「共同」絶対にミスしたくないという気持ちで挑んでいる。静かな語り口の中に強い意志がのぞく...

「おねがいに」 Eメールでの投稿を歓迎します。1千字以内にとめてください...

「共同」絶対にミスしたくないという気持ちで挑んでいる。静かな語り口の中に強い意志がのぞく...

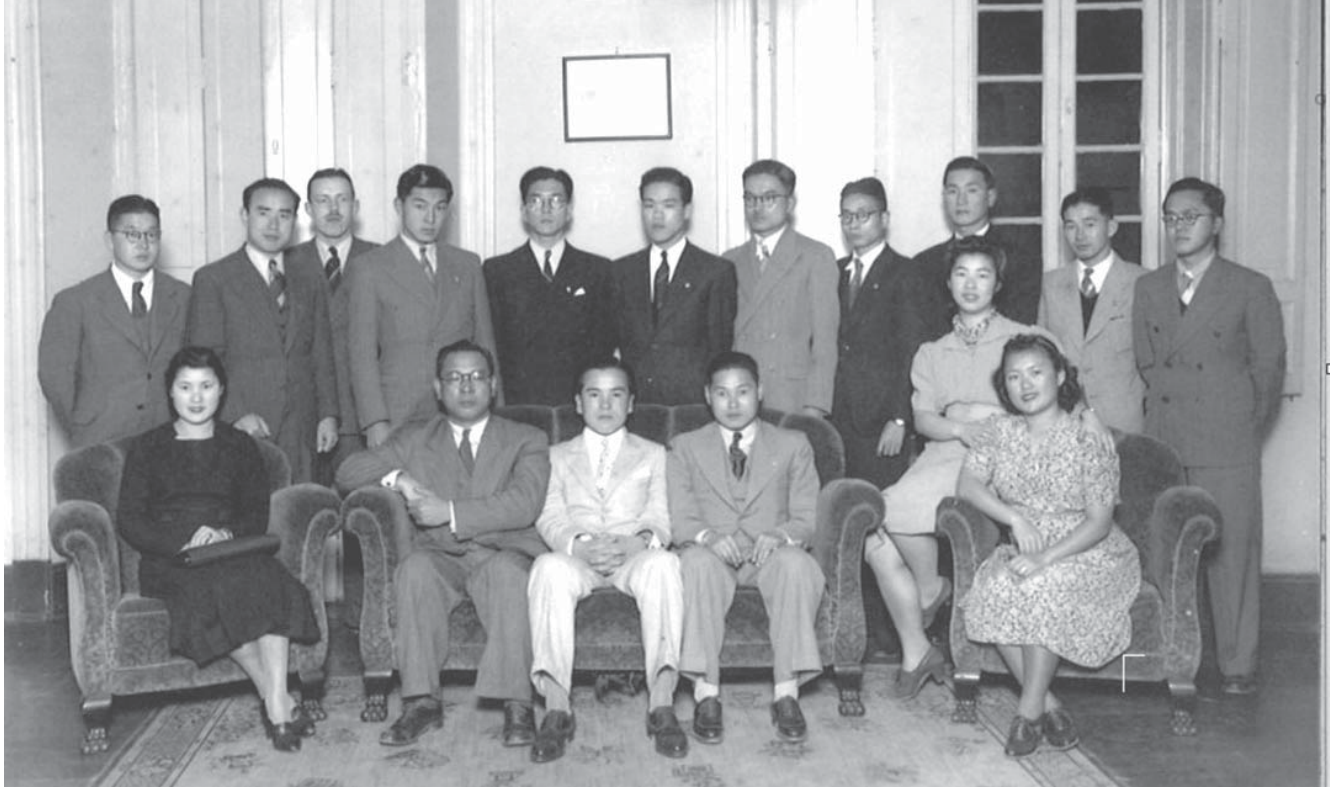
「おねがいに」 Eメールでの投稿を歓迎します。1千字以内にとめてください...

Advertisement for the book 'A VERDADE SOBRE A GUERRA DO PACÍFICO' (The Truth About the Pacific War) by Koichi Mera and Yasuo Inoue. Price R\$50.

Advertisement for the book series '日本文化' (Japanese Culture) by Nissei Shimbun. Set price 160, individual prices from 35 to 40.

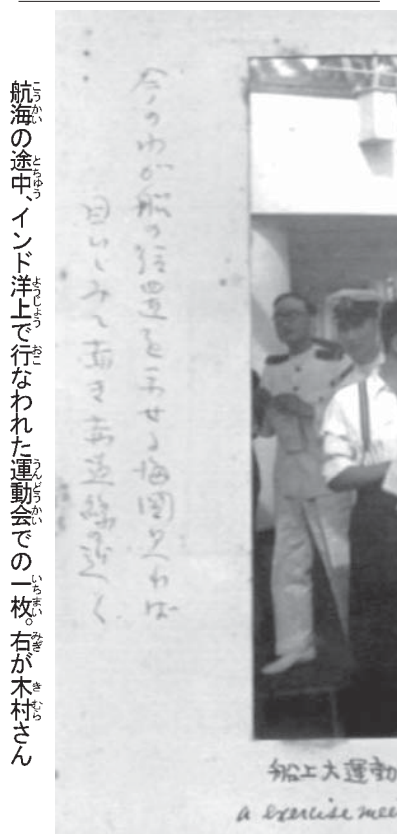
特別寄稿 一人の学生親善視察が 蘇えらせた日系移民の英才たち

ピラ・カロン在住 毛利律子



日本大学南米研究会幹事の木村半さん(前列中央)を歓迎する、ブラジル側の学生連盟の皆さん。輝々たるメンバーが参加した

1939(昭和14)年7月11日15時、初代「あるげん丸」が横濱港を出港して、世界の一周の処女航海の途に就いた。その船に、外務省、拓務省、貿易組合中央会の援助を受け、学生親善視察として乗船していた一人の青年がいた。



航海の途中、インド洋上で行なわれた運動会での一枚。右が木村さん

私はこのたび奇遇にも、当時を語るセピア色の、それらは後日、ブラジル日本移民史料館に寄贈されることになっていくが、数枚の写真を直に見る好運に恵まれた。そのご縁を作ったのは、サンパウロ州ボツカツ市在住で、Universidade Estadual Paulista (Unesp) 大学の正教授を務められていた肥田・ミルトン・正人医師である。肥田ご夫妻により、半氏の御子息・日本経済新聞編集局編集委員の木村彰氏を紹介され、その肥田氏から父親半氏の経歴を伺い、数枚の当時の写真を預かることになった。

「存命の方がいたら、ぜひお礼を。」 2015年11月27日、日本経済新聞社がサンパウロで「日本ブラジル医療セミナー」を開催した。彰氏はセミナーのモデレーター(司会)をしながら、詩論にも参加し議論を進める役割を務めることになり、渡伯前に父・半氏にそのことを報告した。すると、父親から「昔、サンパウロに行った時、日系人の大学生に歓迎会を開いてもらったので、もし存命の人がいたらお礼を伝えてほしい」とその集合写真を手渡されたのであった。しかし、彰氏にはブラジルに伝手はなく困惑していたところ、海外で眼科医療支援をしているある大学教授から、ミルトン肥田医師を紹介された。

肥田医師に写真のコピーを送ると、各部署の記者から、たちどころに写真に写る全ての日系人学生(自系人)の下の院議員や医師となつて第2次大戦に従軍したことが判明した。存命者は唯一、初の日系人女性弁護士となった「ハガ・マリアさん」であつた。104歳という高齢で寝たきりでもあり、またサンパウロから700キロ離れた所に住んでおられるとのこと。残念ながら会うことはできなかった。ところが、「第2次大戦で軍医としてイタリア戦線に従軍した医師ウジハラ・マサキ氏の娘がサンパウロにいたので、会わせてあげる」との連絡を得て、セミナー終了後、サンパウロ市内のホテルでその娘さんとご夫妻、肥田医師ご夫妻と彰氏の5人で昼食を共にして、互いの父親の話を中心に歓談した。大戦では、半氏は陸軍兵士として中国戦線に加わり、1939年に親しく交流した日系移民大学生のウジハラさんと半氏は、その数年後に足跡を分けて戦つていたことが分かった。(ブラジルは連合国側、日本は3国枢軸)

この記念すべきスキヤキ会の集合写真だけではない、半氏は「灼熱(カリオカ)の美都リオの豊かな表情(半氏の言葉)と題して、9月9日にリオへ入港し市内観光した際の写真もアルバムに残っている。例えは、コロコバドの丘のキリスト像、コバカバナ海岸、サンマルティン像、テアトロ・ムニシパル(中央劇場)、アベニダ・リオ・ブランコ(白河大通り)すべて半氏の表現に由るものである」と自筆の説明書きがある。ゆるやかに時間が流れていたであろう、リオの風景を遺している。さて、「あるげん丸」は総トン数1万2755トンの、全長167.3メートルの「国策豪華船」と呼ばれた豪華さを誇つたが、太平洋戦争中に空母に改装された「海鷹」になった。処女航海は7月11日から10月17日のおよそ3か月であつた。航海中は、選りすぐられた美少年のキャビンボーイの接待を受けて、カクテル・パーティー、二日おきに催された映画、ダンス、芝居の上甲板ではガールズ・パーティーと称されたダンス、寿司、ピフテキ、バーの出店が立ち、プールに魚を入れて釣り大会を催し、といったプログラムが組まれていた。(Wikipedia参照)

「大茶盛り」の初釜が開かれた。茶わんは重さ5キログラム前後、同じ味を分かち合い、結束を強める「一味和合」の精神のもと、750年以上受け継がれる伝統の茶儀。13世紀前半に寺の復興に尽力した高僧・寂尊が、当時は薬として貴重だった茶を民衆に分け与えたのが始まりとされる。大阪府泉大津市から参拝に来た徳武葵さん(13)は、周囲に茶わんを支えられながら、濃い抹茶を味わった。「昔にタイムスリップした気持だった。お茶は葉だったと聞いたので、元気で充実した1年を過ごせた」と笑顔だった。

「あるげん丸」が7日木曜日にサンパウロ日本人倶楽部で邦人第2世交換スキヤキ会が、半氏を囲んで催された際の集合写真である。その場に会した人々、ネグタイに背広姿の男生と、上品な装いの美しく若い淑女たちである。いかにも古き良き時代を象徴するように、端正で知的な表情をしている。最も印象的なことは、カメラに向けられた全員が真つ直ぐなまなざしを向けていたことだ。みなぎる若さ、燃える情熱がほとぼり出るような風貌に圧倒されるのである。まさにブラジル移民の開拓時期の、力強く、自信に満ち溢れている人々の心意気を物語る。

その写真に写る全ての日系人学生は肥田医師によって判明されたが、その経緯は次のようなものであった。肥田医師に写真のコピーを送ると、各部署の記者から、たちどころに写真に写る全ての日系人学生(自系人)の下の院議員や医師となつて第2次大戦に従軍したことが判明した。存命者は唯一、初の日系人女性弁護士となった「ハガ・マリアさん」であつた。104歳という高齢で寝たきりでもあり、またサンパウロから700キロ離れた所に住んでおられるとのこと。残念ながら会うことはできなかった。ところが、「第2次大戦で軍医としてイタリア戦線に従軍した医師ウジハラ・マサキ氏の娘がサンパウロにいたので、会わせてあげる」との連絡を得て、セミナー終了後、サンパウロ市内のホテルでその娘さんとご夫妻、肥田医師ご夫妻と彰氏の5人で昼食を共にして、互いの父親の話を中心に歓談した。大戦では、半氏は陸軍兵士として中国戦線に加わり、1939年に親しく交流した日系移民大学生のウジハラさんと半氏は、その数年後に足跡を分けて戦つていたことが分かった。(ブラジルは連合国側、日本は3国枢軸)

「あるげん丸」が7日木曜日にサンパウロ日本人倶楽部で邦人第2世交換スキヤキ会が、半氏を囲んで催された際の集合写真である。その場に会した人々、ネグタイに背広姿の男生と、上品な装いの美しく若い淑女たちである。いかにも古き良き時代を象徴するように、端正で知的な表情をしている。最も印象的なことは、カメラに向けられた全員が真つ直ぐなまなざしを向けていたことだ。みなぎる若さ、燃える情熱がほとぼり出るような風貌に圧倒されるのである。まさにブラジル移民の開拓時期の、力強く、自信に満ち溢れている人々の心意気を物語る。

「あるげん丸」が7日木曜日にサンパウロ日本人倶楽部で邦人第2世交換スキヤキ会が、半氏を囲んで催された際の集合写真である。その場に会した人々、ネグタイに背広姿の男生と、上品な装いの美しく若い淑女たちである。いかにも古き良き時代を象徴するように、端正で知的な表情をしている。最も印象的なことは、カメラに向けられた全員が真つ直ぐなまなざしを向けていたことだ。みなぎる若さ、燃える情熱がほとぼり出るような風貌に圧倒されるのである。まさにブラジル移民の開拓時期の、力強く、自信に満ち溢れている人々の心意気を物語る。

ピラ・カロン在住 毛利律子

ピラ・カロン在住 毛利律子

ピラ・カロン在住 毛利律子

ピラ・カロン在住 毛利律子

ピラ・カロン在住 毛利律子

ピラ・カロン在住 毛利律子

特大茶わんを支えてもらいながら新春の抹茶を味わう参拝者=15日午前、奈良市の西大寺(共同)

特大茶わんを支えてもらいながら新春の抹茶を味わう参拝者=15日午前、奈良市の西大寺(共同)

市場で完熟キンカン「たまたま」をPRする女性=15日午前、宮崎市(共同)

特大茶わんを支えてもらいながら新春の抹茶を味わう参拝者=15日午前、奈良市の西大寺(共同)

特大茶わんを支えてもらいながら新春の抹茶を味わう参拝者=15日午前、奈良市の西大寺(共同)

市場で完熟キンカン「たまたま」をPRする女性=15日午前、宮崎市(共同)



1月15日版

金正恩はゲームに勝った! プーチン発言、北朝鮮が米国に

プーチンは、「金正恩がアメリカに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。

金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。



シリアを訪れ、アサドと会話をしたときのプーチン(Kremlin)

プーチンは「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。金正恩は「金正恩はゲームに勝った!」と誇っています。

メールマガジン「ロシア政治経済ジャーナル」 発行者 北野幸伯 Copyright (C) RPE Journal All Rights Reserved. 358

18日(木)の NHK 00:40 5分わかる「西郷どん」 00:45 NHKプレマップ 00:48 ワールドウェザー

17日(水)の NHK 00:20 所さん!大変ですよ 「なぜか60歳以上」

前版大好評 全巻売り切れ! Jeitinho no Japao para os brasileiros 日本語とポルトガル語の勉強にすぐ便利

SERRA NEGRA SP Chales Hotel Fazenda SERRA NEGRA SP VALE DO SOL TUDO O QUE SUA FAMILIA MERECE ESTÁ AQUI

コロンビア・アリアンサの歴史を知る 決定版 ポルトガル語で読める 木村快著 共生の大地アリアンサ ALIANÇA A TERRA DA COOPERAÇÃO

